

# 大好き! 幾春別川

DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

●無料誌 ●年4回発行 ●部数:4.5万部 ●配布エリア:岩見沢市・三笠市・美幌市・北村

発行元: 幾春別川ニュース編集委員会  
編集委員長 嵯峨 義輝

〒068-0007  
岩見沢市7条9丁目 石狩川開発建設部岩見沢河川事務所内編集委員会事務局  
TEL: 0126-23-9555 FAX: 0126-25-1697

7/30  
桂沢トムソーヤ



冒険! 子どもたちの「ときどきわくわく」思い出づくり

6/18・19  
幾春別川カッブ



川を激走!  
幾春別川上流でカヌーの競技会



7/23  
石狩川流域  
交流フェスタ

かつての、舟運の  
拠点に舟で集結!  
人・物・情報を交換!

楽しさ、優しさ、厳しさ。川はいろいろなことを私たちに教えてくれました。今年も川を通してたくさんの思い出が出来ました。(詳細は次ページで紹介)

## 2005 夏の思い出

幾春別川や石狩川などを舞台に行われた「川のイベント」今年も、大人も子どもも北海道の短い夏を満喫しました。今回はその一部をご紹介します。



7/9・10

石狩川下流権

興奮、感動、達成感!  
総延長64Kmを下りました!

7/10

北海道  
Eポート大会



息を合わせ、10人で  
"Eポート"を完走



6/26

北海道・川の日  
ワークショップ

様々な、川についての  
活動を発表 in くしろ

### 連載⑥ 流域の野鳥 秋

川岸に巣穴を作る  
「小洞燕」



速い、とにかく速くもの凄(まじ)いスピードで飛ぶ。人の体ぎりぎりにかすめ飛んでいく。  
スズメより小さく、ツバメ類の中で一番小さな体のシヨウドウツバメ。

10年ほど前までは、幾春別川河岸に集団営巣地が沢山ありましたが、河川環境の変化等で、今では本当に少なくなりました。  
巣を飛び出してから戻るまで止まることを忘れたかのようにすごいスピードで、飛んでいる虫を捕まえます。鳴き声は、ジュッ、ジュッジュッ、普通に見ることが出来た鳥を知恵を出し合って、普通に見られるようにしたいですね。

写真は、営巣地の一部で約3000の巣穴がありました。  
(岩見沢野鳥の会 若林信男)



シヨウドウツバメの集団営巣  
(幾春別川)



# 来年はあなたが主役です!

ご紹介したこれらのイベントは、幾春別川や石狩川で開催されているものです。「川で遊んでみたい!」と思う方は、どなたでも参加できます。来年の夏は、友だち・家族でチャレンジしてみませんか!

## 石狩川を豪快に進もう!

### 石狩川下見

石狩川流域の市町村相互の深い理解と愛情を育むことを目的に毎年開催され今年で10回目です。初日は深川と雨電の2カ所から39艇、総勢159名が砂川に向けて出発。2日目は砂川遊水地を出発し月形に向かいました。出発後、持ちこたえていた雨が小雨ながら降り出し、参加者は、本降りになる前に到着しようとペリスを上げ、予定より早く到着地点では、地元の人

## 石狩川流域住民が川を通して交流

### 石狩川流域交流フェスタ

今年で7回目を迎えた交流フェスタ。江別市の防災ステーションを中心に、石狩川、豊平川、千歳川、夕張川の各地点から、参加者117人、Eポートやカヌーなど12艇が集まりました。石狩川あおぞら大学で

は、恵庭市の「柏木川プロジェクト」、北村の「NPO法人山のなない北村の輝き」、栗山町の「夕張川なんても探検隊」の3団体が発表。事前の資料や当日のプレゼンテーションなどで、河川愛護の精神や川での子どもの体験活動など、素晴らしい内容でした。

石狩川流域では、市民団体の輪(ネットワーク)が着実に広がっていることと、継続性が高まっていることなど活動のレベルが着実に向上していることを感じました。

完了報告! 三笠カヌークラブ 幾春別川カップ 今年で13回目ですが、長く続けられたのは、コースや周囲の環境が良くなっていること、選手との交流が進んでいること。また、初心者も楽しめる草レースなので緊張しないで参加できることがあげられます。

今年度の競技内容は、ポールをくぐるスラロームレース、スラロームと瀬をロデオの様に乗りこなすフリースタイル、200mの長距離を競うダウンリバーレースの3つの複合レースです。合間にラフトボートの試乗があり、小学生も一緒に漕いで幾春別川

## 釧路で川を大切にする取り組みを発表

北海道 川の日ワークショップ

### 「サケを抱きしめた日」

幾春別川をよくする市民の会 事務局長 西方洋昭

卵から育てたサケを春に放流し、何年かたって特別採捕で生態調査を行うことで、自分たちが育てたサケが本当に川に戻ってきたことを肌で感じとってもらったことを発表しました。

子どもたちの心の中にサケに対する愛着が芽生え、守ってあげたい、そのために川をきれいにする心が育まれたことを伝えました。

発表方法は、パソコンを使ったパワーポイントによるものでしたので、わかりやすく伝えることができたと思います。

交流会では、自然環境に対する意識の高い人たちが集まっていることを再確認しました。

## 雅美の

### 体験レポート

## 河川パトロール

このコーナーは、FMはまなすの「千葉雅美(ちばまさみ)」がレポーターとなり、体験したことを皆さんにお知らせします。



### 今回の案内人



北海道開発局 石狩川開発建設部 「岩見沢河川事務所」 管理係長 小森域世さん

川には、堤防や護岸、樋門などの施設がたくさんあります。それらの施設に異常が無いのか、緊急時に機能するか、また、水が汚染されていないか、ゴミの不法投棄が無いかなど、定期的なパトロールが行なわれています。幾春別川も、岩見沢河川事務所が河川パトロールを行い、流域の暮らしを守っています。今回はこの河川管理施設のパトロールに同行してきました。

幾春別川上流のサイクリングロードを歩いてパトロール!



川沿いには、きれいな風景と珍しい植物や地層、炭層、素堀のトンネルなどがあります。雨の日や翌日の巡視は、川岸の欠陥や流木などを特に気を付けて見ているそうです。



青山橋の下では、ほんの数分で空缶やペットボトルなどで、ゴミ袋がいっぱいになりました。

## 子どもたちが桂沢で自然体験

### 桂沢トムソーヤ

プログラムはカヌー、ロープによるツリークライム、クラフトの体験と桂沢ダム見学の4つ。自然の大切さやダム、川、湖の役割について理解を深めました。

カヌー体験は、カヤックとカナディアンまんきつの二種類。最初は思っていた以上の操作の難しさに戸惑っていた子どもたちも少しずつカヌーに慣れ、どんどん湖の真ん中へと漕ぎ出し、カヌーの楽しさを満喫!

林では「ツリークライム」を体験。ツリークライムは、ロープと専用のハーネス(安全帯)を使って行なう木登り。木の枝の間にかけてられたロープにぶら下がり、腕でロープの結び目を持ち、足止め用のロープに片足をかけて蹴るようにして体を持ち上げて上を目指します。今までとは違う樹の上からの湖や森の眺めに、子どもたちは大歓声!

クラフト体験や桂沢ダムの見学も行ない、桂沢湖の自然と親しむ貴重な時間を楽しんでいました。



各地の名産品は、地ビール(新篠津)、スイカ・メロン(北村)、ピーフジャーキー、ソーセイジ・ハム(北広島)、ヨーグルト他の乳製品(江別)などが紹介されました。

今年度の競技内容は、ポールをくぐるスラロームレース、スラロームと瀬をロデオの様に乗りこなすフリースタイル、200mの長距離を競うダウンリバーレースの3つの複合レースです。合間にラフトボートの試乗があり、小学生も一緒に漕いで幾春別川



川の堤防沿いに点在する樋門では、扉の開閉や護岸のゆがみ、門扉・水路に流木や土砂が堆積していないかなどの点検を行いました。

## 感想

普段は、余り気にとめない河川の施設ですが、それらもきちんと管理・整備されていたんですね。それ以上に心に残ったのが、河川敷の想像以上のゴミです。ペットボトルや花火のあとなど、川岸で遊んだ人たちのものと思われるものでした。川や自然が汚されることは、とても悲しいことだと思います。そのゴミを拾い、処理しているのも河川事務所の方だと聞き、とても胸が痛みました。今回、このレポートを通じ、自然を守る大切さを、再認識した気がします。



# 水生生物調査 in 幌内小学校

三笠市立幌内小学校では7月8日、1年生から6年生までの生徒16名で、学校の前を流れる幾春別川の支流である幌内川の水質調査と水生生物調査を行いました。



## 子どもたちの感想

- 1年 伊藤 瑠那 (いとう るな) さん**  
いろいろなことがわかりました。つりがたのしかかったです。
- 2年 進藤 優花 (しんどう ゆうか) さん**  
一ばん楽しかったのは、魚つりです。また、やってみたいです。
- 3年 鶴飼 晋 (うかい しん) くん**  
水を入れたら、色が変わるのがすごかったです。一ばん楽しかったのはつりです。こんどは時間をかけて魚つりをしたいです。
- 4年 横井 萌美 (よこい もえみ) さん**  
幌内川の水は流れが速くて、冷たかったです。きれいでした。ヘビトンボやヤゴをつかまえました。
- 5年 伊佐治 優吾 (いさじ ゆうご) くん**  
初めて魚つりをしました。1匹もつれなかったけどとてもおもしろかったです。また、魚つりをしたいです。
- 6年 鶴飼 侑 (うかい たすく) くん**  
ぼくは、水中の生物を探したり、手作りのつりざおを作ったりしました。魚はぜんぜんつかせませんでした。担当してくれた方にすごくお世話になり、本当にありがとうございました。今度はボートに乗りたいと思いました。

幌内小学校は6年前から幌内川のクリーン作戦(清掃活動)を始めたところ、年々川に捨てられるゴミが減り、調査前に予定されていたゴミ拾いをする事なく、調査できるまでになりました。

岩見沢河川事務所の協力のもと行なうこの調査も今年で3年目となりました。先生の調査に関する注意事項を確認したあと、流速と水温を測ることから始め、試薬を使った水質調査を行い、幌内川の水がきれいであることを確かめました。



雲に隠れていた太陽も調査が進むにつれ顔を出し始め、

みんなで川に入っている水生生物調査は、川の中の石に付く虫や網に入る水中の小さな虫や魚を採取しました。その種類を確かめたところ、トビゲラなどのきれいな水にすむ水生生物が多いことが確認できました。



調査のあとは採取した水生生物を餌にして、柳の枝を使った釣りにチャレンジ! 短い時間で2年生の江場くんが約20センチのウグイを見事に釣り上げました。



閉会式では子供たち一人一人から楽しかった感想が発表されました。

## 幾春別川流域 美唄市 連載②

### ふるさととの祭り

かつて炭鉱のまちとして歩んだ美唄市。春の炭山祭りの賑わいは人口9万人のまちに広がりました。炭鉱が姿を消した今、「歌舞裸(かぶらまつり)などの祭りが地域の活性化を支えています。

炭鉱(ヤマ)の生活に欠かせない一大イベント「炭山祭り」

春の炭山祭りは「山神祭(さんじんさい)」ともいわれ、炭鉱や美唄の人々の生活に欠かせない行事として、毎年5月11、12日に開かれています。

祭りは坑内安全祈願祭に始まり、御輿(みこし)や山車(だし)の他、相撲や野球・弓道大会、各種演芸などが開催され、会社も学校も休みとなり、美唄のまちに活気に溢れ、祭りの気分が広がったと言われています。



山神祭りで行われた炭車御輿

美唄の夏を盛り上げる「歌舞裸まつり」

「炭山祭り」は炭鉱閉山により姿を消し、まちの人口も3分の1になりました。かつての活気と賑わいを胸に、美唄の活性化を目指す取り組みの一つが「歌舞裸まつり」です。



今年の歌舞裸まつりの御輿

この祭りは、「歌(うた)うた」「舞(まわ)り」「裸(みこし)」を柱に、毎年8月第1土・日曜日に開催されています。「市民踊り」、美唄美唄會(み



2005年 第15回 百万風まつり 大風揚げ

こしかい)の御輿の渡御(きりぎりす)も、美唄市消防団キヤリ保存会による木遣(きやり)披露、元氣あふれる子どもが踊る姿が行われ、美唄の夏の最大イベントとしてまちを盛り上げています。

20畳の大風揚げ 「百万風まつりin美唄」

昭和63年に「大空はひとつ世界はひとつ」をスローガンとした「世界同日風上げ大会」への参加をきっかけに、平成3年から毎年9月第1日曜日に開催しているのが「百万風まつりin美唄」です。スカイポート美唄で、手作り風や連風が空に舞い、その出来栄や揚げ具合を競います。メインイベントとなる20畳大風揚げの迫力に、見物客の歓声が広がりました。

## 川とわたしの思い出



「水害との戦い」  
NPO法人 山のない北村の輝き  
理事長 石黒 武美

北村で、川の思い出と言えば、やはり水害のことしかありません。そこで、私の回想録でまとめさせて頂きます。幼少の頃、近くの川で魚釣り、カニ取り、イカダをみんなで手作りして遊びました。今考えるととても楽しい体験だったと思います。しかし、楽しい思い出ばかりではありません。昭和36年頃の洪水では、我が家は床下まで水に浸かり、外に出ることができず、何日間か家の2階で生活しました。私は小学3年生位だったと思います。その時、両親は泣き言も言わず明るく笑顔で接してくれました。その両親の会話で、「隣の家は1階全て水に浸かってしまったが、我が家は床下だからまだ良い方だ。」と父が言っていたのを覚えています。父は、イカダを作りあちらこちら水面を移動し、家族の食糧を調達していたのかもしれない。その後、昭和50年の水害の時には、私は深川の大学へ通っており、学校に父から電話が入り、「直ぐに帰ってこい!水害になりそうだ。」と言ったので、直ぐに帰りましたが、家の近くまで行く

と、道路は既に通行止で人が沢山集まっておりました。水がゴオーゴオーと音を立てて道路の上を流れており、私は、ズボンを膝までぬぐり、歩いて家に着きました。途中、豚が一頭水の中を泳いでおりました。また、麦わらやゴミが、遙か遠くを流されて行きました。

あのゴミが、我が家の水田の方へ来なくて良かったと思っただけの間、風向きが変わり見事我が家の水田の上で停滞してしまいました。両親と胸の当たりまで水に浸かりながら道路までゴミを押し出した事を、今でも思い出します。

昭和56年の水害では、村の水防団員として地域の安全対策に万全を期しました。

と言ったように、楽しいと言うよりも苦しい思い出ばかりでしたが、この何年か、NPO活動の中で安全対策を講じて旧美唄川を力又いで下る時、本当に楽しく心が安まり、多くのマイナスイオンが出ている気が致します。もっともっと多くの人々に川と接して欲しいと思います。特に「北村の宝」である子どもたちには体験させてやりたいです。





初夏が見ごろの遠藤さんのお庭

「ガーデニングはいつころから始められたのですか? 私はずっと花が好きだったの...」

「遠藤さんの考えるガーデニングの魅力・面白さは何でしょう。フロの手を借りず、自分たちの手で一つひとつ、時間をかけながら作っていくことではないでしょうか。」

「ガーデニングをしてみたい方へのアドバイスをお願いします。花が好きなら誰にでもできますから、そんなに難しく考えずに始めてみることを。」

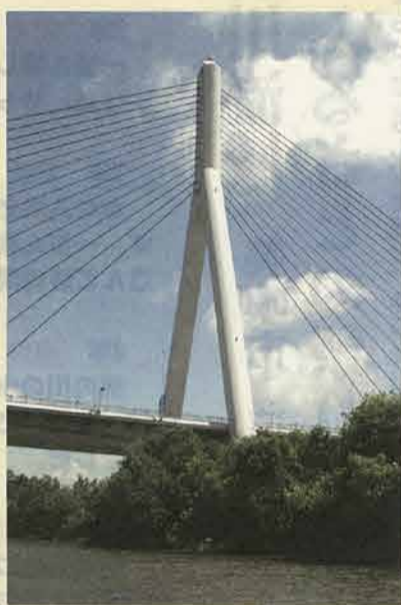
「近所にもガーデニングをされている家が多いようですね。ウチが元祖みたいな形で、少しずつ地域にも広がって行きました。」

「この環境と調和するようにしていくことでしょうか。近所にもガーデニングをされている家が多いようですね。」

人の心を癒してくれる花の力に魅せられて、ガーデニングがブームとなり、多くの花がまちに彩を与えています。今回は、ご夫婦で花のまちづくりリーダー「フラワーマスター」に北海道より認定され、岩見沢で活動している遠藤さん宅にお邪魔して、ガーデニングの魅力と奥さんの薫さんに伺いました。

わがまちの名人 ガーデニング名人 岩見沢市 フラワーマスター 遠藤力男・薫 夫妻

水辺の風景



石狩川交流フェスタで、月形町から江別市までの川下りに参加しました。ゴールに近づくと、曇天から青空へと変わり、普段見ることのない川面からの景色が楽しむことができました。

「舟上からの三原大橋」 新篠津村 山田 知典さん

写真募集

あなたの好きな水辺の風景を写してみませんか。

応募内容

- プリント、デジタルデータ、ポジフィルムなど、形態は自由。
※1人何点でも応募可。
※写真の返却はいたしません。
※応募は随時受付
●送付先: 下記連絡先
「大好き! 幾春別川 水辺の風景係」まで

管内の～道・川・農業～暮らしを築く開発局パネル展

イオン スーパーセンター三笠店で開催

日 時: 平成17年11月18日(金)～20日(日)
主 催: 岩見沢道路事務所 岩見沢農業事務所 岩見沢河川事務所

お便りお待ちしております!

本紙は、楽しい誌面をつくるために読者みなさまからのご意見や感想をお聞きしております。また、「〇〇についてぜひ取り上げてほしい!」という話題もお待ちしております。どしどしお寄せください。

【連絡先】 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内 幾春別川ニュース編集委員会 事務局 〒068-0007 岩見沢市7条9丁目 ※ご質問は、郵送か、ファックス (0126・25・1697) で!

行事予定 EVENT SCHEDULE

- サケの遡上観察会 開催日: 9月下旬～10月下旬 場所: 岩見沢市東町703番地先川向頭首工
■フラワーライン(秋) 開催日: 9月下旬(雨天の場合翌29日) 16:00～ 場所: 狩野橋付近(岩見沢市)
主 催: 幾春別川をよくする市民の会

連載

川の記憶 幾春別川と橋 ②

近代土木遺産の岡山橋

拓が始められました。対岸の岡山(現在の国道12号の西側)は、この土族達の飛び地として支給された地域で、現在の岩見沢市岡山町です。岡山は、明治16年に空知集治監の看守として来道した岡山県の人たちにより開拓されたため、出身者に因んで岡山とよぶようになりました。



国道12号を、岩見沢市街地から美唄に向かっていくと、三笠市の境界付近で右手にアーチ橋が見えてきます。この橋が、約70年前に架けられ、太鼓橋の愛称で長い間親しまれている岡山橋です。橋を渡る手前の東町は、明治18年(1885年)鳥取・山口両県の土族が入植し本格的な開拓が始まりました。

アーチ形式で岡山橋が架け替えられました。現在の国道12号はルート変更され、新岡山橋が架設されましたが、岡山橋は今でも市道に架かる橋として市民に利用されています。この橋は、現存する重要な土木構造物として、近代土木遺産に選定されています。